

事業活動実績報告書

施 設 名	ルンビニー幼稚園
教 育 理 念	幼児の心身の望ましい発達を助長し、宗教的情操の涵養をはかり、園内生活を通して協同自主の精神及び善良な生活習慣を養う。

1 事業名	日本の文化「茶道と一期一会」
2 実施期間	令和 7 年 11 月 7 日 ～ 令和 7 年 12 月 12 日

3	取組概要	（取組日） 令和 7 年 11 月 7 日 ～ （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 子ども達と出会う人たちにお手前。一期一会「茶道」を通しておもてなしの心を育む茶道とはという本来の意味を知り、自身が体験したのち他者へのお手前の練習、それを実践する。(4回) 	
		（取組日） 令和 7 年 11 月 20 日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 子ども達から在園児の保護者、観光客などに呼びかけ、希望者にお手前を披露。30名程度 	
		（取組日） 令和 7 年 12 月 12 日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 帝釈天境内において、観光客のみなさんに子ども達が一期一会・おもてなしの精神をもち、お茶のお手前をした。「おふくかげんいかがですか？」と聞く子ども達に、「It's so good.」と答えてくださるお客様に満足げであった。 	
		（取組日） 令和 年 月 日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	

効果検証報告書（継続事業用）

施 設 名	ルンビニー幼稚園				
教 育 理 念	幼児の心身の望ましい発達を助長し、宗教的情操の涵養をはかり、園内生活を通して協同自主の精神及び善良な生活習慣を養う。				

事業の区分(5領域)	幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください)				
	健康	人間関係 ◎	環境 ◎	言葉 ◎	表現 ◎
1 事業名	日本の文化「茶道と一期一会」				
2 事業概要	子ども達と出会う人たちにお手前。一期一会「茶道」を通しておもてなしの心を育む				
3 対象学級(クラス名) 対象人数	年長組 あお組18名・みどり組17名			35 名	
計画時	4 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況			
		茶道家の指導を幼稚園の環境の中で体験し、文化を学ぶ			
計画時	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等			
	4についての効果・検証	繊細な茶道具、茶器、茶碗を丁寧に扱う。今この時に集中してお手前をする目の前の人 が喜んでくれる所作や心配りはどんなことなのかを問われ、子ども達が発言したり実現し ようとする姿が見られた。			
計画時	5 事業のねらい	日本には美しい四季と伝統文化が継承されている。しかし、環境はITの発展とともに実体 験より過剰な仮想体験へとそのバランスは崩れているかもしれない。東京オリンピック招 致において世界が賛同してくださった「おもてなし」という日本独自の文化には、一期一会 二度と戻らない今この時を人とともに大切にしたいという奥ゆかしい思想がある。茶道を通 してこの日本古来の文化に触れ、子ども達の豊かな情操を育むことをねらいとしている			
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等			
計画時	5についての効果・検証	家庭環境の中で、正座の経験も大変少なくなっている。心と身体を静という時間に集中す るという体験。心を無にして今ここに集中するという瞑想に近い経験が積み重なったと思 う。「おいしかった」「またごちそうしてほしい」という相手がかけてくれた言葉にホッとし たり、嬉しそうに微笑む姿があった。			
	6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等			
計画時		茶道とはという本来の意味を知り、自身が体験したのち他者へのお手前の練習。一連の 動きを習得し実践する。「表現」生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメ ージを豊かにする。という経験から「人間関係」他者の気持ちを想像し、自ら関わろうとする 人間関係が育まれる。			
		上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点			
		「表現」生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。という経験から 「人間関係」他者の気持ちを想像し、自ら関わろうとする人間関係が育まれる。豊かな感性は、身近 な環境に十分関わる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事とであう。茶道のお手前をす る前に清潔な環境を自ら整う、季節に合った草花を飾るなどおもてなしという概念を理解し、心を表 現する。人間関係の領域では、社会生活における望ましい習慣や態度を身に着ける経験を、一期 一会という言葉になぞられるがごとく相手の気持ちに沿いながら丁寧に集中して取り組む姿がある。			
		(継続事業のみ記入)前年度の取組から発展させた点			
		本年度は、茶器にこだわり自分で選別したり製作してみるにより、表現の多様性に触 れたり自己表現する楽しさを経験するなど、昨年度の振り返りを活かし発展させたいと思 う。			

計画時	事業後	6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 「失礼します」「ありがとうございます」「お先にどうぞ」「けっこうなおてまえでした」など茶道を通して、人を敬う所作や丁寧な言葉を使おうとする姿が見られた。自分がお茶をたてることによって、相手が喜んでくれる又はしてあげることが嬉しいという気持ちをたくさん育んだためか、「今日はお寺に行ける?」「また外国の人に会いたい」など社会的な空間が広がったように感じる子どもが多かった。ルールや決まりを自ら守って取り組むことが大切だと感じているようだった。茶器を制作するという活動までは至らなかったことは今後の課題でもある。
	7 環境構成例		幼稚園の環境を茶道という文化を取り入れ、設える。人的な環境、茶道家(僧侶)からお手前やしきたりを学び静かな時間を主体的に作る。また、帝釈天境内地にあるお茶室にて実践することにより、日本文化財に触れる経験が期待できる。
	事業後	7についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 観光客との交流において、子どもの個人情報などへの配慮が必要と感じた。
	8 期待される効果児童の姿		取組を通じて期待される児童の姿や効果等 そもそも「子どもは元気である。」という概念は、とするとにぎやかなイメージにスポットがあたるかもしれない。しかし、心揺さぶられる心情の中には、静かな時間も同じように混在し環境や事象に応じた心の調整ができて「子どもは元気」=心身ともに健康と言えるのだと思う。茶道という日本古来の文化を経験し、やってみたい!してあげたい!という豊かな心情と、人を大切にするという態度を育むことを期待する。
	事業後	8についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 園庭と境内の境界地で、茶道のお手前をしたいと観光客を心待ちにする子ども達が、「なんかドキドキしてきた」活動に期待を持っている姿。また、実践の場ではもてなす方へ美味しいお茶を立てたいという向上心から丁寧な所作、美しい姿勢をしようという意気込みがみられた。
9 効果検証総括			事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 帝釈天(葛飾柴又)は、都内初の文化的景観に選定され外国からの観光客も多い。一期一会・おもてなしの精神を茶道を通して学ぶ日本独自の幼児教育とその姿も、子ども達が観光客にお茶を立てるおもてなしなど、海外へも発信できる。幼児は、柴又帝釈天境内で日本文化に触れ、僧侶である茶道家からお手前を習い茶室で実践する経験を通して、「おもてなし」という言葉にある日本人のアイデンティティーを育むことができた。始める時期を早くして、年間を通した取り組みにしていきたい。継続事業である本年度は、とくに1対1の経験を皆にさせてあげたいという観点から、保護者とのつながりを密にした。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。